社会連携に向けた取り組み

地域社会との連携に向けた取り組み

▶ 京大おもろトークの開催、オープンコースウェアを通じた講義映像の公開

本学では、教職員、研究者、学生達による芸術分野の「おもろい」発想（独創的な研究）と国内外の「おもろい」文化芸術家との意見交換の場をつくり、文化芸術との連携を本学から発信することを目的として、平成27年度より「京大おもろトーク：アートな京大を目指して」を開催しています。2年目となる平成28年度は7月（テーマ「顔」）、10月（テーマ「矛盾をはらんだ創造」）、3月（テーマ「芸術と毒の微妙な関係」）を開催しました。

そのほかにも本学では、学術研究活動の中で培われてきた知的資源について、広く学内外の人々と共有を図ることを目的とした公開講座「春秋講義」を1988（昭和63）年秋から開講しているほか、大学と社会との協力・連携を一層深めるため、企業や官庁、国際機関、NGO、大学・研究機関、マスメディア、文化・芸術などさまざまな分野で活躍する卒業生を迎えて、講演と意見交換を行う「京都大学未来フォーラム」など、地域社会のみなさまの生涯学習機会の場の拡充を図っています。

オープンコースウェアは2005年から始まった試みで、実際に講義で使っている教材をインターネット上に載せて、いろんな方々に本学の講義を視聴していただこうという取り組みです。

平成28年度の主な取り組み・実績

おもろトーク参加人数

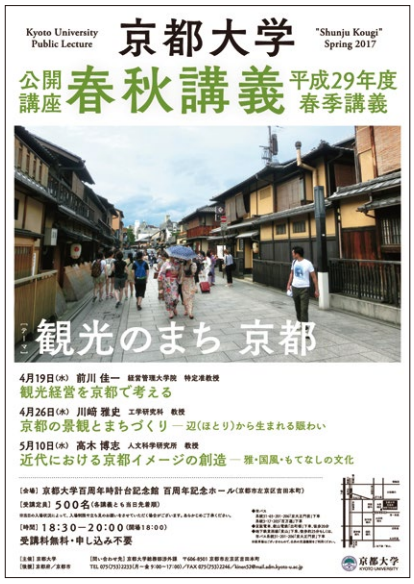
延べ643名

春秋講義参加人数

延べ1,197名（春季）

延べ869名（秋季）

第7回 京大おもろトーク



春秋講義 平成29年度春季

WEB **京大おもろトークや春秋講義等の講演映像は、京都大学オープンコースウェアでも公開しています。**
https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja

国際社会との連携に向けた取り組み

▶ 国際機関との連携

本学は、平成28年6月に食糧の気候変動に関する影響評価、食品安全や収量予測に関する研究協力、人材交流などを目的とした包括的協定を国連食糧農業機関（以下「FAO」）と締結するとともに、国連機関の中で途上国支援とキャパシティデヴェロプメントを中心的に担当する国連開発計画（以下「UNDP」）と、インターン、講義、研究などを推進していく包括的な連携協定を締結しました。

また、本学学生および広く一般の方々を対象とした食糧安全保障に関する「京都大学 ー FAO国際セミナー」を開催するとともに、UNDPとも共同シンポジウム「国際開発シンポジウム 国連機関と高等教育機関の連携」を、同じく一般の方々も対象として開催しました。

これらの協定をきっかけに、本学による国際貢献がさらに推進されることが期待されています。

FAOとの包括協定締結記者発表

共同シンポジウム「国際開発シンポジウム 国連機関と高等教育機関の連携」

▶ 各国大学・機関との連携

日本・ASEAN双方から産官学の代表者・副代表者クラスが参加し、イノベーション・科学技術分野における協力と発展に向けて話し合う、第3回ASEAN－JAPANワークショップが、タイ・バンコクにて開催されました。本ワークショップは、STSフォーラム（科学技術と人類の未来に関するフォーラム）がASEANで開催するもので、今回はNSTDA（タイ国立科学技術開発）との共催により開催され、政府・公的機関、企業等経済産業界、大学・研究機関等からあわせて約150名が参加しました。

セッション「世界的な競争力をつけるためのASEANと日本の人材育成の協力のあり方」で議長を務めた山極総長は、参加者の意見を紹介し、ASEANと日本の協力、次世代の人材育成のための大学の役割の重要性と展望についてメッセージを発信しました。

また、在タイ日本国大使とタイ国科学技術省大臣がスピーチの中で、本学のJASTIP（日ASEAN科学技術イノベーション共同研究拠点）事業に言及し、本学とASEANの各機関との一層の連携促進に期待を述べられました。

プログラムの最後には、産官学での協力体制構築により日本・ASEANの世界的競争力の向上に取り組むこと、さらには世界的な科学技術の向上に向けて、この会議の成果を10月に京都で開催されるSTSフォーラム年次総会へ活かすことが確認されました。

セッションの様子（左：議長を務める山極総長）

大学の人材育成の役割を語る山極総長

サステイナブルキャンパスの構築に向けた取り組み

Environmental Management

環境配慮活動の推進について

本学は、約3万人の構成員が、さまざまな研究・教育・社会貢献活動等をするコミュニティであり、エネルギー消費・温室効果ガス排出、資源消費・ごみ排出はもちろんのこと、多種多様な化学物質の使用など、量と質の両面で多くの課題を抱え、管理を必要としています。

本学では平成14年に「京都大学環境憲章」を制定し、基本理念と基本方針を定めました。基本理念において、環境に配慮した運営を行うことを宣言するとともに、基本方針では「すべての構成員の協力のもと、継続性のある環境マネジメントシステムを確立する」という基本的な方向性を打ち出しました。

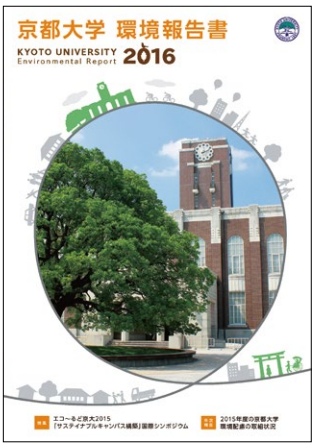
また、平成24年より従来のエコキャンパス構築の取り組みから、さらに発展させたサステイナブルキャンパス構築の取り組みを進めており、「京都大学環境憲章」の精神のもと、環境安全保健機構を中心とした環境マネジメント体制において学内の環境負荷軽減に取り組んでいます。

▶ 環境配慮啓発活動の推進について

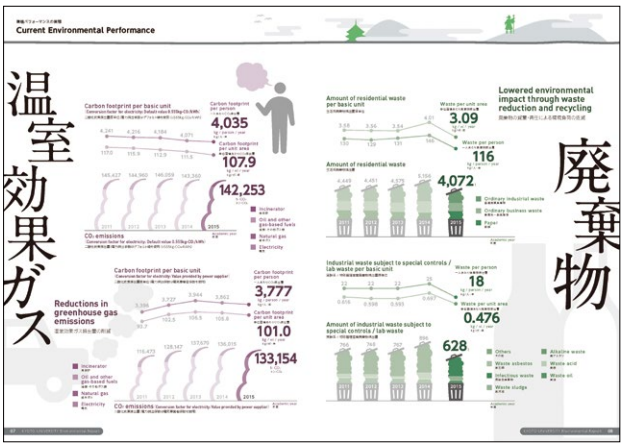
本学では、学内における環境配慮啓発活動の一環として環境報告書2016を作成し、ホームページで公開するとともに、全国の国立大学等への日本語版冊子送付、留学生を含む新入生への日英併記版冊子の配付を行っています。

本学の環境報告書は、ご覧いただくすべての本学構成員およびステークホルダーのみなさまにとって、気づき、考え、そして行動の契機となることを目指し、本学の環境に関する教育・研究および学内のさまざまな環境に配慮する取り組み・活動について報告するものです。平成28年度は特集として、学生が中心となって企画・運営する参加型イベント「エコ～るど京大」の平成27年度「秋の陣」「冬の陣」「春の陣」「初夏の陣」（「初夏の陣」については平成28年度に実施）と、平成27年度に第3回目が開催されました「サステイナブルキャンパス構築」国際シンポジウムの二つのテーマ等をとりあげています。

なお、環境報告書2016は、第20回環境コミュニケーション大賞（環境省主催）の環境配慮促進法特定事業者賞（第20回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）を受賞するなど、高い評価を受けています。



環境報告書2016



環境報告書2016（日英併記版）抜粋

WEB **京都大学環境報告書2016はホームページでご覧いただけます。**
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/foundation/environment/report

男女共同参画に向けた取り組み

Gender Equality

男女共同参画社会の実現に向けて

本学は、平成18年度から「京都大学における男女共同参画の基本理念と基本方針」を決定し、平成21年度からは「京都大学男女共同参画推進アクション・プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現を目指してさまざまな活動を推進しています。

特に本学が推進すべき3つの重点目標として、「女性リーダーの育成」、「家庭生活と両立支援」、「次世代育成支援」を設定し、本学における男女共同参画の一層の深化を進めるべく取り組んでいます。

▶ 京都大学たちばな賞

本学では、若手の女性研究者の優れた成果を讃える制度として、京都大学たちばな賞を創設しています。

本賞は、人文・社会科学または自然科学の分野において、優れた研究成果を挙げた本学における若手の女性研究者を顕彰し、当該若手女性研究者およびこれに続く若手女性研究者の研究意欲を高め、もって、本学、さらには我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成等に資することを目的に、平成20年度に創設されたものです。

▶ 研究・実験補助者雇用制度

出産・育児・介護のため研究時間の確保が困難な本学の研究者のために、研究実験を補助する者の経費を助成する制度を設けています。女性研究者に限らず、育児・介護等に携わる男性研究者も助成対象となります。

▶ 女子高生・車座フォーラムの開催

本学では、女子高校生やその保護者の方々に研究者や科学者の仕事を知ってもらう機会を提供するフォーラムを開催しています。11回目の開催となった「女子高生・車座フォーラム2016」は、高校生129名、保護者64名の参加がありました。

理系・文系それぞれの研究分野や領域の紹介といった大学進学に関わる話をはじめ、研究の面白さや苦労、専門職や研究職など大学卒業後の将来設計のための心得、子育てや介護と研究生活の両立方法、研究論文の執筆や学会発表といった研究者の仕事内容など、さまざまなテーマについて、教員や大学院生、学生が疑問にお答えし、フォーラムは盛況のうちに終了しました。

グループワークの様子

女子高生・車座フォーラム2016

▶ 保育園入園待機乳児保育室

本学学生および研究等に携わる教職員の研究と育児の両立を支援することを目的として、待機乳児保育室を開室しています。

平成28年度は計25名の待機乳児を受け入れました。

待機乳児保育室

WEB **男女共同参画推進センターの活動実績については、ホームページでも紹介しています。**
http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/

コミュニケーションの強化に向けた取り組み

情報発信の推進に関する取り組み

▶ 海外へ向けた情報発信の体制整備

新しい海外向け広報誌「KYOTO U Research News」を創刊したほか、海外メディア向けプレスツアーを実施しました。

KYOTO U Research Newsは、本学の先端的かつユニークな研究成果や、魅力的な研究者の活動を英語で発信することで、日本語を解さない読者の方々にも広く本学の魅力を知ってもらうことを目的として、従来二種類あった英文広報誌（「楽友」、「Research Activities」）を整理・統合し、平成28年9月に創刊しました。また、従来の紙媒体主体の発信から、より国際的な拡散が期待できるWebによる発信を強化すべく、既存の研究特設サイト「Research @ KU Diverse & Dynamic」を「KYOTO U Research News」仕様にリニューアルしたうえで、同誌のコンテンツも追加し、より見やすく、より魅力的なサイトとしました。

海外メディア向けプレスツアーは、海外の報道機関に所属する記者に本学への取材の機会を提供し、本学の魅力や研究力を身近に感じてもらい報道の機会を増やすこと、および報道関係者とのネットワーク構築を目的としています。今年度は総長インタビューをはじめiPS細胞研究所や防災研究所等への取材を企画・実施しました。ツアー開催後には、アメリカ、ドイツ、中国等で報道されたほか、各国から新たな取材依頼が寄せられるなど、本学の研究成果に対する注目が集まっています。

プレスツアーの様子（iPS細胞研究所）

KYOTO U Research News（2017 Spring）

WEB **英文広報紙「KYOTO U Research News」はホームページでもご覧いただけます。**
http://www.kyoto-u.ac.jp/cutting-edge/

▶ 大学ブランドサイトの充実

他大学にはない本学の強みやユニークな取り組みを分かりやすく、積極的に発信するため、大学ブランド戦略の一環として、新たに、スマートフォンユーザー世代である中高生に向けて、本学ならではの魅力を紹介するゲーム型サイト「探検!京都大学」モバイル版を公開しました。

本学の研究者たちの姿やそこから生み出される発見を紹介する体験型ゲームを通して、本学のユニークな研究内容や研究者ならではのエピソードなど、ディープな京大ワールドを知るだけでなく、本学ならではのすぐに答えが見つからない「めんどくささ」を「楽しい」と思える体験を提供します。

「探検! 京都大学」モバイル版

WEB **「探検!京都大学」サイトモバイル版はこちらからお楽しみいただけます。**
http://www.mendoksa.pr.kyoto-u.ac.jp

Communication

コミュニケーション機会の充実に関する取り組み

▶ 京都大学東京オフィスの移転

本学では、首都圏での戦略的な情報発信・情報収集を一層強化し、本学のプレゼンス向上を図ることを目的として、平成28年5月に、京都大学東京オフィスを品川から丸の内（東京駅より徒歩1分の新丸の内ビルディング10階）に移転しました。

京都大学東京オフィスは、本学の将来に亘る発展に資する新たな事業展開を視野に入れ、東京地区における情報の発信および収集の拠点として開設しており、本学の教職員（元教職員を含む）、学生、卒業生ほか関係者の方などにご利用いただける会議室を大小合計6室用意しています。また、連続講演会の「東京で学ぶ京大の知」シリーズや、「丸の内セミナー」、「知の拠点セミナー」なども開催され、一般の方にも親しまれています。

東京オフィス

WEB **京都大学東京オフィスの詳細は、ホームページでも紹介しています。**
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office

▶ 同窓会活動の活性化

本学では、本学と卒業生、卒業生相互の交流の場として、毎年11月にホームカミングデイを開催するとともに、コミュニケーションネットワークの強化のため、京大アラムナイ（卒業生名簿管理システム）、京都大学生涯メールサービスおよび京都大学同窓会Facebookを運用しています。さらに、国内外の地域同窓会の設立支援や開催支援、各同窓会に対する積極的な情報提供、地域同窓会等と本学役員および関係職員の意見交換等を通じて、同窓会活動を活性化させる取り組みを推進しています。

ホームカミングデイ

WEB **京都大学同窓会の活動実績は、ホームページでも紹介しています。**
http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/

平成28年度の主な取り組み・実績

ホームカミングデイ参加者数
延べ約2,400名

京大アラムナイ登録者数
8,459名

生涯メールサービス登録者数
10,082名

▶ 第11回東京フォーラムの開催

本学では、研究成果の発表や政官財界のトップで活躍している関係者との交流・意見交換および、出席いただいた本学関係者の結束を図るという効果を期待して、「東京フォーラム」を開催しています。第11回となる平成28年度は、「面白い（おもろい）を探求する－わかる、ということ－」をテーマに開催し、約310名の方が参加されました。今後もこのような機会を継続的に提供し、本学のプレゼンス向上に努めていきたいと考えています。